

授業科目名	和文：法律を考えるB - 法学 - 英文：Jurisprudence B : Outline of Civil Law				時間割	金 5-6	
科目コード	501-0014	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1・2年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	日本国憲法B・C 民法I						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
西台 満	政策科学	3-328、889-2659					
オフィスアワー 曜日及び時間： 場所：							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 先ず一般教育（General Education = 本学では教養基礎と呼んでいる）の目的としては、生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭に keep しているわけだが、大学に入ったのをいいきっかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つずつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。 2. 到達目標 自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも改めて「本当だろうか？」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では主に民法を題材にして、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1 高校までの「勉強」と、大学でする「学問」の違い 2 時代の変化 工業化時代から情報化時代へ 3 過失責任主義 4 物権と債権 5 物権の排他性と公示制度 6 動産の公示 占有 7 不動産の公示 登記 8 債務不履行と不法行為 9 挙証責任 10 公害訴訟 11 証明と疎明 12 消費者金融							
授業に関連するキーワード	債務不履行	不法行為	登記				
公害	挙証責任	超過利息	証明				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 1月下旬の一回の試験で。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、出席を取る。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書として、 西台著『理論民法』高文堂出版社（2000円）							

授業科目名	和文：日本国憲法A - 自分の憲法観が持てるように - 英文：The Constitution of Japan				時間割	金 7-8	
科目コード	501-0041	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	くらしと法 - 教養法学 - , 教養ゼミナールII - 人権の現代的諸相 -						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
池村 好道	教育文化・地域科学	教文3 - 330・2661					
オフィスアワー	曜日及び時間：月曜日 18:00～19:00			場所：教文3 - 330			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解 2. 到達目標 1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 本学の教育目標である「社会の変化に柔軟に適應できる幅広い教養」の涵養のための授業科目の一つ。 本授業科目は統治機構に主眼がおかれており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の一層の理解が可能となる。 目的・主題別としては、「学問の体系」を重視する。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> ・ 憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法的視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。 進行予定は以下の通り。 1～2回：国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為 3～4回：平和主義：9条の解釈 5～6回：国会：両院制，参議院の存在理由など 7～8回：内閣：議院内閣制など 9～10回：裁判所：司法権の観念と帰属など 11回：地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回：基本権：種類，享有主体など 15回：試験実施 ・ 講義のなかで、憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。 ・ 教育文化学部学校教育課程以外の学生については、受講者の人数制限を行うことがある。							
授業に関連するキーワード	憲法	統治機構	象徴				
戦争の放棄	衆議院の解散	司法権の独立	外国人の人権				
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 期末試験の結果による。尚、受講状況を加味する。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。 最も小型のものでよいから、事前に「六法」を用意しておくこと。							

授業科目名	和文：日本国憲法C - 自分の憲法観が持てるように - 英文： The Constitution of Japan C				時間割	木 3-4	
科目コード	501-0043	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	法律を考えるA・B						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
西台 満	政策科学		3-328、889-2659				
オフィスアワー 曜日及び時間：火、 4：10～5：40 場所：西台研究室（3-328）							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット（初期化＝パソコン用語で、新しいデータを書き込めるように、古いデータを全部消去すること）するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。 2. 到達目標 （1）憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようにになっている。そういう憲法観のどこがおかしいのか？ 主要な問題を取り上げて、批判する。 （2）たとえ常識みたいに使われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 社会科学であれ自然科学であれ、発明・発見をするには上記のような批判的思考力が絶対に必要である。本講は、最も一般教育（本学では、教養基礎と呼んでいる）らしい科目であり、これを受けるか受けないかで、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 学問とは何か 2. 憲法の名宛人 3. 基本的人権と「法律の留保」 4. 天皇制の意義と、国事行為に関する解釈 5. 自由と平等の関係 6. 「法の下での平等」の意義と法律制定の目的 7. 選挙と「法の下での平等」 8. 政教分離のあり方 9. 三権分立 10. 衆議院の解散 11. 地方自治を殺す憲法解釈							
授業に関連するキーワード	民主主義	法律の留保	地方自治				
衆議院の解散	法治主義	官僚主権	信教の自由				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 1月下旬の一回の試験で評価する。 出席の良し悪しも考慮するため、毎回出席を取る。							
<b>教科書・参考書等</b> 参考書として、 『法学六法'09』高文堂出版社（1000円）							

授業科目名	和文：現代社会と経済ⅠB - 経済学入門 - 英文：Modern World and Economy IB:Introduction to Economics				時間割	木 3-4	
科目コード	501-0104	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
島澤諭	教育文化学部	教文 3-326・2657					
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜 12:00-13:00			場所：教文 3-326			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解する。  2. 到達目標 経済学の基礎を身に付ける。 経済学を現実経済に応用できる。 経済現象を説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 経済学としての方法論についての講義を通じて、経済学的なものの見方を修得する。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> この授業では、わが国では歴史的経緯から「近代経済学」と呼ばれているグローバルスタンダードな経済学を使ってさまざまな日常問題(経済・社会・政治)を分析することで、高度に抽象化されている経済理論の概要を紹介します。							
授業に関連するキーワード	ミクロ経済学	マクロ経済学					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 期末に実施する試験により行う。追試験・再試験は実施しない。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しない。							

授業科目名	和文：現代社会と経済ⅡB - 現代社会と経済学 - 英文：Modern World and Economy IIB:Contemporary Society and Economics				時間割	金 1-2	
科目コード	501-0114	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
小林 正雄	教育文化学部	教文3 - 327・2658					
オフィスアワー	曜日及び時間：金 16:30～17:30			場所：教文3 - 327 (電話：889-2658)			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 経済学（社会科学）の見方・考え方を知り，現代社会をトータルに見る眼を養う。 2. 到達目標 やがて進んでいくそれぞれの専門分野（教育，経済・法などの社会領域，医療，技術等）について，どのような角度から見ればいいかを身につける。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 社会・歴史を科学的に考察するための科目の一つであるが，とくに地域科学・学校教育（社会教科）課程の学生は，専門教育（日本経済論・国際経済論など）の基礎として履修しておくことが望ましい。（「現代社会と経済学」は，同一授業内容ゆえ，A・Bのいずれかを選択し履修すること。）							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1～2. 経済学の面白さ - “発展段階論”とその意義 - 3～4. “三段階論”（原理論・発展段階論・現実分析）考 5～8. 純粋資本主義と原理論 (1) 純粋資本主義とはなにか (2) 純粋資本主義と原理論（景気循環論） 9～13. “発展段階論”の論理 (1) 資本主義の発展段階と構成要素 (2) 「20世紀システム」考 (3) 「21世紀システム」考 14～15. 現実分析：日本経済 - 20世紀から21世紀へ -							
授業に関連するキーワード	三段階論	原理論	発展段階論				
現状分析							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 試験あるいはレポートを中心に，出欠状況を加味して，総合的に評価する。							
<b>教科書・参考書等</b> 使用の予定							

授業科目名	和文：日本と諸外国の政治ⅠB - 現代日本政治 - 英文：				時間割	火 3-4	
科目コード	501-0154	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部全学年						
授業の形式	講義	備考	全学部1～4年				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
中村裕	教育文化学部		教文 3-332,2604				
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 戦後日本の政治の展開，特質を歴代内閣の政策とその時代背景を検討しつつ，理解する。 2. 到達目標 1. 戦後日本の政党，政治家，内閣の基本方針，政策を検討することを通して，政治，政治的発想に関して社会科学的に考察する姿勢，問題意識を身につける。 2. 民主主義，国民的合意，政策等について，戦後日本政治の実像に即して考察する能力を修得する。 3. 新聞や総合雑誌の論調を読み取るための基礎力を身につける。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 社会科学入門							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 戦後改革と五十五年体制 2. 戦後日本の保守と革新 3. 60年安保闘争の意味 4. 高度経済成長と自由民主党の政治スタイル 5. 経済大国の諸相 6. 田中内閣と戦後民主主義 7. 低成長の政治思潮 8. 中曽根内閣の「戦後政治の総決算」 9. 冷戦の終焉と日本政治 10. 自民党一党優位体制の終焉 11. 政界再編 12. 行財政改革を取り巻く状況 13. 新自由主義とそれに対抗する動き 14. 日本政治が直面している問題 15. 試験							
授業に関連するキーワード	五十五年体制	保守と革新	経済大国				
戦後ナショナリズム	冷戦	新自由主義	政治改革				
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 最後の試験を重視するが，数回の小テストの結果も考慮する。 試験では文章の構成，論理展開，受験者の自分なりの考察の点から評価を加える。							
<b>教科書・参考書等</b> 参考書 中村政則『戦後史』（岩波新書） 吉見俊哉『日本近現代史Ⅱ＝ポスト戦後社会』（岩波新書）							

授業科目名	和文：社会と家族 B - 家族社会学の基礎 - 英文：Society and Family B:the Basis of Family Sociology				時間割	水 3-4	
科目コード	501-0191	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
石 沢 真 貴	政策科学		教文 3-331・2616				
オフィスアワー	曜日及び時間：火、水、木			場所：教文 3-331			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。  2. 到達目標 家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 社科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> <b>授業の概要</b> 家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを問いつつ考察する。 <b>進行予定及び進め方</b> 1 ガイダンス 2 家族の定義 3 家族に関する基礎的概念 4 家族と法 5 家族に関する法の近年の動向 6 近代社会と「近代家族」 7 世帯構造の変化でみる現代家族 8 世帯構造変化の要因 9 家族機能の変化と家族問題 10 社会制度としての結婚 11 結婚に関する近年の動向 12 離婚・再婚に関する近年の動向 13 夫婦関係と性別役割分業 14 女性と労働 15 現代家族のゆくえ							
授業に関連するキーワード	家族	近代	社会学				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> ・ 授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・ 授業内のレポート等提出物を評価の際に考慮する場合もある。 ・ 総合的な評価の結果が60点未満の場合は不合格Dとする。							
<b>教科書・参考書等</b> ・ 教科書は使用しない。 ・ 必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。							

授業科目名	和文：社会と地域 B - 都市社会学の基礎 - 英文：Society and Community B: Introduction to the Urban Sociology				時間割	火 3-4	
科目コード	502-0121	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	(特になし)						
内容的に密接に関係する授業科目名	('教養基礎教育'では特になし)						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
和泉 浩	教育文化学部	018-889-2649					
		e-mail: izumi@ed.akita-u.ac.jp					
オフィスアワー	曜日及び時間：2期水曜9・10ほか研究室在室時				場所：教育文化学部3号館322		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらえるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基礎的な理論と今日の理論展開について学ぶ。 2. 到達目標 1. 社会学とは、どのような学問なのかを理解する。 2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。 第1講 授業についての説明 第2～4講 社会学とはどのような学問か 第5講 社会学における「社会」 第6項 「地域」とは 第6～7講 地域社会、地域コミュニティの現状と問題 第8～10講 都市社会学の基礎と都市研究の理論潮流 （ジンメル、シカゴ学派からミシェル・フーコーの都市論まで） 第11～15講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学							
授業に関連するキーワード	社会学	地域	社会理論				
都市	空間論的転回						
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 授業に関連する内容についての小テスト（複数回の場合あり）とレポートで成績を評価します。 ・小テスト（40点）：授業内容について理解しているかの確認 ・レポート（60点）：授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。 レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートは、そのすべてのものをDにします。きちんとした引用の書き方をせずに、部分的であっても無断で著作、ネットの内容を引用したことがわかった場合もDにしますので注意してください。手書きのレポートは基本的に不可とします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。小テストを受けず、レポートだけ提出した場合は評価をDとします（成績の基準により、レポートが満点だとしてもCのため）。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書と参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示しますが、参考文献として下記のようなものがあります。 加藤政洋・大城直樹編著、2006、『都市空間の地理学』ミネルヴァ書房。 若林幹夫、1995、『地図の想像力』講談社選書メチエ。 シヴェルプシュ、1982、『鉄道旅行の歴史』法政大学出版局。 ジンメル、『ジンメル・エッセー集』平凡社ライブラリー。 ウェーバー、『都市の類型学』創文社。 Giddens, Anthony, 2006, Sociology, 5th edition, Polity Press. ほか							



授業科目名	和文：秋田の自然と文化 I B - 秋田の食 - 英文：Nature and Culture in Akita IB: Dietary Habits in Akita				時間割	金 7-8	
科目コード	502-0154	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
長沼誠子	教育文化学部	教育文化学部1号館203室・2530					
オフィスアワー 曜日及び時間：月曜日9：00～12：00 場所：教育文化学部1号館203室							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食嗜好・食文化の相違性とその要因について考える 2. 到達目標 1) 食生活の構造、おいしさ評価と食嗜好形成のメカニズムを説明できる。 2) 食の地域性とその要因について、事例（秋田の食、出身地の食）をあげて説明できる。 3) 食に関する統計資料を分析し、その結果を発表できる。 4) 官能評価法の目的・方法を理解し、評価の実施・集計・解析を行い、その結果を発表できる。 5) 各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を発表し、クラス内で意見交換ができる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 目的主題別科目【地域社会論】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。主に「学問の進展」を目的としており、学生の発表・討論を通して、「地域と食文化」研究の萌芽を探ることをねらいとする。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. ガイダンス：地域とは？ 食文化とは？ 2. 食生活の構造（食行動分析）何のために食べるのか？ 3. おいしさのメカニズム（官能評価・嗜好調査）おいしいと思う理由は？ 4. 食嗜好の形成要因（食歴調査）食べ物が嫌いになる理由・好きになる理由は？ 5. 米食の文化（官能評価）ご飯の好みに個人差や地域差はあるか？ 6. 米食の文化（資料分析）米食の国内比較・国際比較 7. 米食の文化（グループ討論）秋田の米食は？ 地域の米食は？ 8. 報告会：「地域と食文化を考える - 米食文化を中心として」 9. 秋田の食文化（資料分析）調理加工法に地域差はあるか？ 10. 秋田の食文化（資料分析）塩味・甘味の好みに地域差はあるか？ 11. 秋田の食文化（官能評価）秋田の食の特徴は？ 12. 行事と食（資料分析）行事食が継承される理由・継承されない理由は？ 13. 地域と食文化（グループ討論） 14. 報告会：「地域と食文化を考える」 15. 期末試験  * 授業の内容に応じて評価・調査・集計・解析を個別あるいはグループ別を実施し、毎時、評価用紙・課題用紙などを提出する。 * 集計作業・結果の解析、情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。 * 学生への質問、討論は随時行う。 * PC プロジェクターは随時活用する。							
授業に関連するキーワード	食生活	食文化	食嗜好				
地域	秋田	米食	行事食				
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 評価・課題用紙の内容および発表・討論参加状況 70%、 期末試験（資料等の持込有）30%							
<b>教科書・参考書等</b> 資料を配布する。 参考書：石川寛子『地域と食文化』放送大学教育振興会 近藤弘『日本人の味覚』中公新書 その他、授業時に紹介する。							

授業科目名	和文：秋田の自然と文化Ⅱ - 秋田の農 - 英文：Nature and Culture in Akita IIB : Agriculture in Akita				時間割	火 5-6	
科目コード	502-0173	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式		備考	全学部1～4年				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
寺井謙次	教育文化学部		教文1 - 212・2690				
オフィスアワー	曜日及び時間：随時			場所：教文1 - 212			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 秋田の風土的認識を土台にしながら秋田の農業の姿や歴史を概観し、「農とは何か」を考えてもらう一つの契機としたい。 2. 到達目標 単に「農」にかかわる断片的な知識を得るということではなく、地域性や社会環境、さらには食糧生産や環境保全との関係性のなかで、「農の営み」について自分なりの考え方をもちことを期待している。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 「地域社会論」を構成する1科目として、内容が科目間相互に関連するものである。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. はじめに 2. 秋田の自然 (1) 自然環境 3. 秋田の自然 (2) 農業的自然 4. 秋田の稲作 (1) イネと人間とのかかわり 5. 秋田の稲作 (2) 生き物としてのイネの一生 6. 秋田の稲作 (3) 昔の品種と栽培の技術 7. 秋田の稲作 (4) 今の品種と栽培の技術 8. 稲作の北進と冷害の歴史 9. 秋田の農業 (1) 風土性の違いと農作物 10. 秋田の農業 (2) 豆の話 11. 秋田の農業 (3) その他の農作物 12. 秋田の野菜 13. 農業について秋田の子どもたちはどう考えているのだろうか 14. そして親たちや行政は 15. まとめ							
授業に関連するキーワード							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> レポート（複数回）							
<b>教科書・参考書等</b> 随時紹介							

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 IV B - 秋田の自然・資源・社会・文化 - 英文：Nature and Culture in Akita IVB:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita				時間割	木 7-8	
科目コード	502-0234	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
水田 敏夫	地球資源	工資 G310・889-2380		石沢 真貴	政策科学	教文 3-322・889-261 教文 3-322・889-2616	
石山 大三	環境資源センター	工資セ 218・889-2447		天野 憲一	医学部附属実験実習機器センター	医・884-6190	
井上 正鉄	人間環境	教文 4-412・889-2588		神 万里夫	医学部内科学第1講座	医・884-6104	
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜, 16:10-17:00				場所：工資 G310・889-2380			
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、爾後の専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。							
2. 到達目標 1) 限りある地下資源の基礎的知識を学習し、世界有数の秋田県の黒鉛鉱床資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。 2) 世界自然遺産地域に指定された白神山地の生態系を理解し、人間との共存の道を探ることができる。 3) 秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。 4) 秋田県のツツガ虫病の実態を把握し、この症病の疫学、病態学、免疫学的な面を考えることができる。 5) 胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解することができる。							
カリキュラム上の位置付け							
人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3学部の教官がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う(本年度の担当責任者は水田 敏夫)。秋田県北東部の北麓地域に分布する世界有数の黒鉛鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術、そして世界への貢献について紹介、資源問題を考える。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
第1回(水田): 限りある地下資源について、地殻での資源鉱物の賦存状況そして金属の濃集による鉱床の生成を概説する。秋田県北東部の北麓地域に分布する世界有数の黒鉛鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術、そして世界への貢献について紹介、資源問題を考える。							
第2回(水田・石山): 地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物(鉱物、鉱石等)を見学・観察する(学生ボランティアも参加)。 < 鉱業博物館玄関に集合 >							
第3回(井上): 秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園及び世界自然遺産地域に指定された白神山地があり、両地共にブナ林に覆われ、そこには国指定天然記念物であるイヌワシ、クマガウラを始め貴重な鳥獣が生息している。秋田が誇る生態系の構成員である貴重な鳥獣の生態を紹介、人間との共存の道を探る。							
第4回(井上): 世界遺産地代白神山地を紹介し、白神山地の保護・管理の在り方を探る。							
第5回(石沢): 秋田の生活、秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から明らかにする。							
第6回(天野): 秋田県を含む裏日本には昔からツツガ虫病というダニに刺されることによるリケッチア症が存在している。現代でも秋田県では年間数十人・全国では数百人の規模で発症している。この症病の疫学、病態学、免疫学的な面を紹介し、その存在を知ってもらう。							
第7回(神): 「胃癌について」日本は欧米に比し胃癌の発生が多いことが知られている。その日本の中でも秋田県の胃癌発生率は高く、胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解する。							
メッセージ: プリント、OHP、PC プロジェクタ - を用いながら講義を進める。自然物を対象とする地学や生物学は、講義に加え、野外や本学の鉱業博物館等で観察することが望ましい。							
授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉛鉱床と鉱業博物館		世界遺産と白神山地			
秋田の自然	秋田の生活	ツツガ虫		癌			
成績評価の方法及び合否判定基準							
授業内容に関するレポート(50%)、簡単な小テスト(50%)で評価する。							
教科書・参考書等							
特に使用しない。							

1. 授業科目名(和文) **秋田戦略学Ⅰ—秋田のバリアフリー・環境:2009—**  
 (英文) Strategic Approach to Akita Issue I
2. 時間割 木曜 18:00～20:00
3. 単位・時間数 1単位・30 時間
4. 開講場所 カレッジプラザ(仲小路)  
 ※遠隔授業システムを活用して、各大学の教室で受講することもできます。受講場所は、各大学の教務担当係におたずねください。
5. 責任教員・連絡先 秋田大学教育推進主管(般 1-204, 018-889-3201)
6. 目的

この授業では、秋田という地域が抱える課題を発見し、それぞれの課題解決の方策や展望について考察していきます。特にこの授業では、課題解決へのアプローチを特定の学問分野に限定せず、理系・文系という二分法を乗り越えて様々な観点から考察することを特徴としています。教員からの一方向の情報提供にとどまらず、教員と学生、学生間での議論や対話を重要視します。

7. 到達目標

- ・地域が抱えている課題の構造を図や表を用いて表現することができる。
- ・地域が抱えている課題の今後の展望について、自分なりの考えを文章にすることができる。
- ・秋田という地域が発展していくための作戦を述べるることができる。

8. 授業形態

- ・各回で採用する授業方法は主に講義形式で、これに学生による調査、討議、報告等も加えていきます。
- ・複数の機関の教員で授業を担当します。

9. 2009 年度の日程, 担当教員, テーマ

実施日	回	担当教員	所属	テーマ(15 字以内)
10 月 1 日	1	大友和夫	秋田大	秋田の食と脳および脳血管疾患
10 月 8 日	2	中村順子	日赤短大	高齢者の理解と秋田の現状
10 月 15 日	3	菅原香織	美工短大	バリアフリーは誰のため?
10 月 22 日	4	小川信明	秋田大	秋田の酸性雨
10 月 29 日	5	尾崎保夫	県立大	八郎湖の水質改善を目指して
11 月 5 日	6	金 主鉉	秋田高専	農業濁水の生態影響と八郎湖の現状
11 月 12 日	7	布田 潔	秋田大	秋田の水に見る毒性と資源性
11 月 19 日	8	小川信明	秋田大	まとめ

10. 授業方針と留意点

教員からの一方向の情報提供にとどまらず、教員と学生、学生間での議論や対話を重要視します。学生の皆さんに身近なテーマを取り上げる予定ですので積極的に参加してください。

11. 授業に関連するキーワード

秋田県, 地域, 課題解決, バリアフリー, 生活環境, 高齢化社会, 八郎湖

12. 成績評価の方法

- ・各回に、到達目標に応じた小レポートを課します。また、最終試験としてレポートを課す予定です。

13. 教科書・参考書等

- ・教科書……指定しません。
- ・参考書……各回に紹介します。

1. 授業科目名(和文) **秋田戦略学Ⅱ―秋田の地域理解と活性化:2009―**  
 (英文) Strategic Approach to Akita Issue II
2. 時間割 木曜 18:00～20:00
3. 単位・時間数 1単位・30時間
4. 開講場所 カレッジプラザ(仲小路)  
 ※遠隔授業システムを活用して、各大学の教室で受講することもできます。受講場所は、各大学の教務担当係におたずねください。
5. 責任教員・連絡先 秋田大学教育推進主管(般 1-204, 018-889-3201)
6. 目的

この授業では、秋田という地域が抱える課題を発見し、それぞれの課題解決の方策や展望について考察していきます。特にこの授業では、課題解決へのアプローチを特定の学問分野に限定せず、理系・文系という二分法を乗り越えて様々な観点から考察することを特徴としています。教員からの一方向の情報提供にとどまらず、教員と学生、学生間での議論や対話を重要視します。

7. 到達目標

- ・地域が抱えている課題の構造を図や表を用いて表現することができる。
- ・地域が抱えている課題の今後の展望について、自分なりの考えを文章にすることができる。
- ・秋田という地域が発展していくための作戦を述べるることができる。

8. 授業形態

- ・各回で採用する授業方法は主に講義形式で、これに学生による調査、討議、報告等も加えていきます。
- ・複数の機関の教員で授業を担当します。

9. 2009年度の日程, 担当教員, テーマ

実施日	回	担当教員	所属	テーマ(15字以内)
11月26日	1	勝又美智雄	教養大	全体の総論
12月3日	2	島屋純晴	美工短大	中心市街地のにぎわい創出
12月10日	3	上村康之	ノア大	中心市街地の観光資源
12月17日	4	芝山昌也	美工短大	上小阿仁のアート利用策
1月14日	5	渡部高明	ノア大	内陸線沿線の観光資源
1月21日	6	恒松良純	秋田高専	秋田の都市景観を考える
1月28日	7	寺田和子	聖園短大	昔話が伝えるもの
2月4日	8	蒔田明史	県立大	まとめ

10. 授業方針と留意点

教員からの一方向の情報提供にとどまらず、教員と学生、学生間での議論や対話を重要視します。学生の皆さんに身近なテーマを取り上げる予定ですので積極的に参加してください。

11. 授業に関連するキーワード

秋田県, 地域, 課題解決, 都市景観, 秋田学, 観光資源, 活性化

12. 成績評価の方法

- ・各回に、到達目標に応じた小レポートを課します。また、最終試験としてレポートを課す予定です。

13. 教科書・参考書等

- ・教科書……指定しません。
- ・参考書……各回に紹介します。

授業科目名	和文：地球の環境と資源 I B - 地球環境と化学元素 - 英文：Global Environment and Resources IB:Chemical elements and global environment				時間割	月 1-2
科目コード	503-0019	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等 2期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくても、学習によって理解できる内容です。					
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IIB-地球環境と放射線」「地球の環境と資源 III-環境モニタリングと大気環境」					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教育文化学部自然環境講座				
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで 場所：教文 3-218 教文 3-218						
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 地球環境における化学元素の分布と生体内での機能についての理解 2. 到達目標 1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏、大気圏での元素の存在量 5, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 6, 生体における元素存在量 7, 生体における化学元素の機能 8, まとめと最終の小試験  * 遅刻者は最前列への着席していただきます *						
授業に関連するキーワード	地球	大気	海洋			
生体圏	化学元素	必須元素	有毒元素			
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 授業 3 回目以降、毎回 10 分程度のマークシート形式の小試験を行います。 可否：小試験の成績が 60 %以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が 2/3 に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。						
<b>教科書・参考書等</b> 参考書・教科書は用いません。プリント、OHP を利用します。						

授業科目名	和文：地球の環境と資源 III - 環境モニタリングと大気化学 - 英文：Global Environment and Resources III:Environmental monitoring and atmospheric chemistry				時間割	月 1-2
科目コード	503-0022	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等 2期後半
受講対象学生	全学部 1～4 年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくても、学習によって理解できる内容です。					
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IAB-地球環境と化学元素」「地球の環境と資源 IIA-地球環境と放射線」					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文 3-218・2622				
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで 場所：教文 3-218						
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 化学の立場で地球の大気環境について理解する。 2. 到達目標 地球環境と大気化学について以下の内容について理解し説明できること。 1, 環境モニタリングと化学分析 2, 大気環境問題に関わる化学反応 3, 大気環境問題の現状と未来						
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 環境や化学を専門とする学生には、入門的な内容。それらを専門としない学生には、教養を高める内容。						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1、微量化学成分の化学分析 2、水質および大気のモニタリング 3、光と物質の相互作用 4、大気の化学組成とその変遷 5、地球規模での大気環境問題、(1) 地球温暖化と二酸化炭素 6、同、(2) 酸性雨と硫黄化合物 7、同、(3) フロン等の難分解性化学物質による環境汚染 8、まとめと最終の小試験 * 遅刻者は最前列への着席していただきます *						
授業に関連するキーワード	モニタリング	地球環境	大気			
化学分析	地球温暖化	酸性雨	オゾン層破壊			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 授業 2 回目以降、毎回 10 分程度のマークシート方式の小試験を行います。 合否：小試験の成績が 60 %以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が 2/3 に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。						
<b>教科書・参考書等</b> 参考書・教科書は用いません。プリント、OHP を利用します。						

授業科目名	和文：地球の環境と資源 IV B - 地層の話 - 英文：Global Environment and Resources IV B:Introduction to Geological Sciences			時間割	水 5-6
科目コード	503-0124	必修・選択	選択	単位・時間数	2・Introduction30
開設学期等	開設学期等				
受講対象学生	全学部 1～4 年				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
内 田 隆	工学資源学部				
オフィスアワー	曜日及び時間：	場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法、ならびに地球上で生起する諸現象とその自然史的展開を学び、歴史性を背負った存在としての地球に関する認識を深めることを目的とする。 2. 到達目標 1) 地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的变化ではなく、さまざまな事件で構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地質的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因の理解にもとづき、日常生活のあり方について考察できる。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 本講義は目的・主題別科目のうち、「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたり、高校までの平均的知識のほか、特別な予備知識は前提しない。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 詳細については、初回の講義で説明する。 【参考：昨年度授業概要】 <b>基礎編</b> 1. ガイダンス 2. 地層は時計である；地質学的認識の基礎 3. 古生物の進化と地質時代区分；地質時代区分は何を根拠にして行われているか 4. 年代を測る；地質時代の年数はどのようにして測定されているか <b>各論編</b> 5. ワンダフルライフ - カンブリア紀の爆発 - ；高等動物大量出現の時、何が起こったか 6. 大量絶滅の謎；恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したのか 7. マグマのはたらき；火山噴火を起こすものの正体 8. 火山噴火のタイプ；火山噴火はどのように起こるのか 9. 地層の形成；地層のできた 10. 気候は変動する；地層記録によれば、地球上の気候は驚くほど大規模に変化する 11. 地磁気は逆転を繰り返した 12. 地層の変形と地殻変動 <b>総括編</b> 13. 海洋底は拡大している；海洋底は大洋中央海嶺で形成され、水平方向に移動する 14. プレートテクトニクス地球表層で進行している基本過程 15. 日本列島はどういう所か；日本列島ではなぜ地震災害、火山災害が多いのか					
授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）	進化		
マグマ	火山噴火	地球環境変遷	プレートテクトニクス		
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。					
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しない。毎回の講義にプリントを配付するとともに参考書を紹介する。					



授業科目名	和文：環境と社会B - 地域環境とインフラストラクチャー - 英文：Environment and Society B:Regional Environment and Infrastructure					時間割	木 7-8
科目コード	503-0184	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
木村一裕	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2368		長谷部 薫	工学資源学部	工資 1-409 2358	
石井 千万太郎	工学資源学部	総合研究棟 5F 教員ゼミ室 2361		徳重 英信	工学資源学部	工資 1-412 2367	
浜岡 秀勝	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2974		松富 英夫	工学資源学部	工資 1-416 2363	
川上 洵	工学資源学部	工資 1-414 2366		荻野 俊寛	工学資源学部	工資 1-419 2364	
オフィスアワー 曜日及び時間：講義終了時にアポイントを取って下さい。 場所：各教員室							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後具体的な整備例について履修する。 2. 到達目標 1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中での鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境							
授業に関連するキーワード	社会基盤	社会資本整備の理念			都市と交通		
建設構造物	建設材料	地盤災害			水環境		
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> レポート（30％）、グループ学習の成果（60％）、その他出席状況等（10％）などを考慮して総合的に評価する。							
<b>教科書・参考書等</b>							

授業科目名	和文：心理学ⅡA - 現代心理学の課題 - 英文：PsychologyⅡA -Introduction to Psychology-				時間割	水 5-6	
科目コード	504-0021	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	心理学Ⅰ						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
清水 貴裕	教育心理学講座	教 5-405, 2539					
オフィスアワー	曜日及び時間：月曜 5, 6 時限			場所：研究室			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 本講義では、「関係」をキーワードにして、主に社会心理学、発達心理学、臨床心理学の領域における基礎的な理論や研究知見について学んでいきます。 2. 到達目標 人間関係や人間関係が個人に及ぼす影響に関する心理学的な知見や理論を理解し、説明できるようになること。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 認定心理士資格取得のための必修科目。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. オリエンテーション 「関係」を深める・知る 2. 印象形成 3. 対人魅力 4. 自己開示・自己呈示 5. パーソナリティの理解と自己認知(1) 6. パーソナリティの理解と自己認知(2) 「関係」を育てる 7. 社会性の発達(1) 8. 社会性の発達(2) ソーシャルスキル 「関係」を変える 9. 態度と態度変容 10. 説得コミュニケーション 11. ストレスとソーシャルサポート 12. 心の問題への理解 13. 心理療法の考え方(1) 14. 心理療法の考え方(2) 15. 試験							
授業に関連するキーワード	人格心理学	社会心理学	発達心理学				
臨床心理学							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 試験と授業への積極性の総点で60点以上を合格とします。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。参考書は授業で適宜紹介します。							

授業科目名	和文：心理学ⅡB - 現代心理学の課題 - 英文：Psychology IIB				時間割	水 5-6	
科目コード	504-0022	必修・選択	必修	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考	医学部医学科必修				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	心理学Ⅰ						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
北島正人	教育文化学部	4316・889-2693					
柴田 健	教育文化学部	教5-301, 889-2673					
オフィスアワー		曜日及び時間：要 事前予約			場所：研究室		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 日常生活や職業に生かせる心理学の基礎的理論と方法を学習する。 2. 到達目標 (1) 日常生活で起こっていることを、授業でとりあげたトピックの範囲で心理学的に理解することができること。 (2) 心理学をより専門的に学習するための基礎を習得すること。 (3) 心理学研究の基礎的方法を習得すること。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> あらゆる人間活動と関係する「心理学」の基礎を習得させることは、優れた人材育成のための基礎教育となる。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. オリエンテーション 2. 心理学の中の臨床心理学 3. 心理援助の対象となる問題 4. 心理援助の基礎（人格理論・発達理論） 5. 対象理解のための心理アセスメント（発達検査・知能検査） 6. 対象理解のための心理アセスメント（人格検査）と心理検査の実際 7. 心理療法とは（概説） 8. 心理療法の諸理論1（個人の援助を目指すもの） 9. 心理療法の諸理論2（集団への援助を目指すもの） 10. 心理療法の発展1：行動療法・認知行動療法 11. 心理療法の発展2：家族療法 12. 心理療法の発展3：ナラティブ・アプローチ 13. 心理療法の発展4：ブリーフセラピー 14. コミュニティ心理学 15. 1～14のまとめ							
授業に関連するキーワード	臨床心理学	心理援助	心理アセスメント				
心理療法							
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 講義・討論への積極的参加、出席状況を合わせて総合的に評価する。							
<b>教科書・参考書等</b> 「心とかかわる臨床心理第2版：基礎・実験・方法」川瀬正裕他著 ナカニシヤ出版を用い、補足説明のためにその都度資料を配付する							

授業科目名	和文：表現と人間 I B - 対人・対話・対応 - 英文：Human Expressions IB:Human Relations					時間割	木 5-6
科目コード	504-0042	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
佐々木久長	医学部		884-6506				
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 人間関係に関する基礎的理論を学び、より良い人間関係が展開出来るようになる 人間関係がうまくいかない人に適切な支援ができるようになる  2. 到達目標 1. 人間関係の主体者としての自己理解を深める 2. 対人コミュニケーションの構造を理解する 3. 実際の対人関係の背景にある心理を理解する 4. 傾聴について理解し実践を試みる							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> ペアワークによる実践的・体験的内容を含む							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 人間関係の主体者としての自己 2. 人間の存在性について 3. コミュニケーションについて 4. 傾聴について(1) 5. 傾聴について(2) 6. 人間関係における受容と拒否 7. 人間関係における援助と攻撃 8. 人間関係における依存と自立 9. 家族という関係 10. 恋愛・愛情・友情について 12. 個人と集団 13. 対人関係の健康と病理 14. テスト 15. 全体のまとめ							
授業に関連するキーワード	自己理解	他者認知	コミュニケーション				
傾聴							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 定期試験(80%) + 出席(20%)							
<b>教科書・参考書等</b> 参考書 1) 吉森護編著 人間関係の心理学ハンディブック 北大路書房 2) 対人行動学研究会編 対人行動学ガイド・マップ プレーン出版							

授業科目名	和文：文学論B - 教養読書基礎講義 - 英文：Lecture on Literature B:Lecture on liberal reading				時間割	金 3-4	
科目コード	504-0062	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
成田 雅樹	教育文化学部		教3 - 139・2531				
オフィスアワー	曜日及び時間： 曜日及び時間：月曜日 8:50～12:00 火水金曜日 16:10～		場所： 教育文化学部 3 - 139 (電話：889 - 2531)				

#### 授業の目的及び到達目標

##### 1. 目的

- (1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。  
(2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。

##### 2. 到達目標

- (1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。  
(2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。  
(3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。

#### カリキュラム上の位置付け

目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標(1)と深く関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。

#### 授業の概要と進行予定及び進め方

1 (10/2) 回...オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」)

- 2 (10/9)～4 (10/23) 回...明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較)  
5 (10/30)～6 回(11/6)...大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「屋敷楼」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較)  
7 (11/13)～8 (11/20) 回...大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較)  
9 (11/27) 回...昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較)  
10(12/4)～11(12/11) 回...昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・以前の読後感との通時的比較)  
12(12/18)～13(12/25) 回...現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較)  
14(1/22) 回...現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート(重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較)  
15(1/29) 回...試験(レポート)

2～4回、7～8回、12～13回はビデオを使用する。授業で扱う原作の中で、短編は授業時間内に読むこともある。ただし、2回目までに「それから」を、9回目までに「人間失格」を、12回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。

ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。

授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ
解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴリー	表層と深層及びメタファーとテーマ

#### 成績評価の方法及び合否判定基準

出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合：C、出席及び提出物の数がほぼ完全かつ授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合：B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合：A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合：S。配点は概ね、授業中の取組35点、提出物の内容35点、試験レポートの内容30点とする。追試・再試は行わない。

#### 教科書・参考書等

「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。  
また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。

授業科目名	和文：日本とアジアの文化 III - 日本の古典文学 - 英文：Cultures in Japan and Asia III:				時間割	金 3-4	
科目コード	504-0111	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	なし						
内容的に密接に関係する授業科目名	日本文化基礎論 III・IV、日本文化論						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
志立正知	教育文化学部日本・アジア文化講座	教 3-132・2611					
オフィスアワー 曜日及び時間：木 5・6 場所：志立研究室(教 3-132)							
<b>授業の目的及び到達目標</b> <b>1. 目的</b> 古典に対する知識や理解を深めることで、先人達の知恵に学ぶとともに、現代日本文化や日本人としての私たち自身のアイデンティティを形成している文化的伝統を自覚的に扱う意識を育てる。 <b>2. 到達目標</b> 1. 基礎的教養としての古典文学に対する知識を習得し、古典に親しむことができる。 2. 作品の歴史的・思想的背景に対する基礎的知識を身につけ、それについて説明できる。 3. 古人の知恵に学び、現代が古典から継承しているものについて、自らの力で考え論じることができる。 4. 自らの意見を積極的に発信するとともに、他者の意見に耳を傾け、効果的な議論ができる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 幅広く深い教養、多角的でしなやかな思考力、総合的かつ自律的判断力を培い、豊かな人間性を涵養するという教養教育の目的に即し、大学人として必須の日本文化に対する基礎的理解と、それに根ざして今・自分を捉え直す力を身につけることをねらいとしている。目的主題別科目としては、「学問の体系」を重視する。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 古典文学作品、は先人達の英知の結晶である。そこには、当時の文化・思想などの伝統がさまざまな形で投影されている。それが今日なお読みつがれているのは、そこに普遍的な「人間」に対する深い洞察が潜んでいるからである。だからこそ、古典作品は今日なお生き生きとした光を放っている。 本講義では、作品の文学的鑑賞をまず第一とする。同時に、作品が作られ享受された歴史的・社会的・文化的背景等についても言及を試みる。その上で、作品から浮かび上がる当時の人間・社会の本質を追求しながら、時代を超えて普遍的な人間と社会の問題や、その現代的意味について考察を発展させていきたい。 本年度は、今日もっとも親しまれている古典のひとつである『徒然草』を扱う。徒然草に記された内容は多様で、ときに真摯な求道者の側面を見せるかと思えば、極めて実利的な実生活に即した処世訓を記したりもする。それゆえに、時代や状況によってさまざまな読み方がなされてきた。こうした『徒然草』の多面的な側面それぞれに光を当てながら、兼好の生きた時代状況・思想的背景などを踏まえることで、兼好の求めた本質を明らかにする。こうした過程を通して、今日の日本人のアイデンティティに大きな影響を与えている「中世」という時代と、時代状況によって育まれた人生観・世界観に対する理解を深めることを目的とする。また、【レポート】や【発表】をとおして、自分自身の「生き方」を改めて見つめ直す姿勢を涵養するよう努める。 1. 古典・テキストという概念について〔概説〕 2. 中世的価値観の誕生と現代 3. 『徒然草』前後 兼好の体験した時代 4. 『徒然草』の構成 5～7. 若き兼好と『徒然草』 序～三十段前後 貴族的価値観・無常の肯定・隠棲への志向 8. 詠嘆の無常観から積極的無常観へ 9～10. 無常との対峙【課題1】 「無常迅速」の認識・「寸陰愛惜」・「諸縁放下」 11. 兼好の無常観のまとめ・兼好の眼差しとは【課題1 レポート提出】 12～13. 兼好の眼差しと現実感覚【課題2】 処世訓としての『徒然草』・『徒然草』の笑話 14. 王朝への憧憬【課題2 レポート提出】 15. まとめ 【レポート課題1・2】では、事前に指定された対象章段についてのプレ・レポートを課し、授業ではそれに基づいて各自が意見発表や議論に参加できるように予習を求める。その後、講義・議論を踏まえてレポートを完成させる(11回・14回に提出)。							
授業に関連するキーワード	中世(鎌倉末～南北朝)	無常観	人間観				
自然観	隠遁	伝統的美意識	貴族的価値観				
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 1) レポート2回(各30%)...観点2・3 2) 課題に対する討議への発言(20%)...観点4 3) リフレクション・ノート(毎回授業終了時に記入・提出、20%)...観点1・2 欠席が5回に達した時点、あるいはレポートの未提出の時点で履修放棄と見なす。							
<b>教科書・参考書等</b> テキスト：岩波文庫『徒然草』*書店・生協などで各自用意すること 参考図書：永積安明『徒然草を読む』(岩波新書) 小林智昭『無常感の文学』(弘文堂) 小松英雄『徒然草抜書』(講談社学術文庫)							

授業科目名	和文：日本とアジアの文化Ⅳ - 中国の文化と文学 - 英文：Cultures in Japan and Asia IV: Literature and Cultures of the Chinese				時間割	金 3-4	
科目コード	504-0121	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。						
内容的に密接に関係する授業科目名	「日本とアジアの文化」に係る科目全般						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
石川 三佐男	教育文化学部	教3 131・2610					
オフィスアワー 曜日及び時間：随時（会議等で不在の時は御免） 場所：石川研究室（教3 131）							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 日本文化のルーツとなっている中国の文化や文学について知見を広め、この方面の基礎的教養を身につける。 2. 到達目標 1) 中国の考古、文物、文学、人物、歴史等に関する基本的見方、考え方を養う。 2) 「豊かな総合知」獲得するために、例えば秋田・日本・世界（中国）・宇宙を一元的に包括するなどの、連鎖性のある巨視的視点を身につけることを目指す。 3) 学習体験の省察を図り、ものごとを実証的に探求する方法を学ぶ。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 目的主題別科目「人間発達と文化」の一つ。 「日本とアジアの文化」に即し、中国の文化と文学の発生と展開に関わっている。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 本授業は「最も古いものは最も新しい要素を宿している」という視点に立っている。 珍しい考古出土資料（映像・画像・写真など）を扱うよう努める。 古代の考古、文物、文学、人物、事件等を扱う。 テーマは必ずしも連続していないが、互いに何らかの関わりをもつよう務める。 授業は「中国の文化と文学」に係る基礎的知見を養うことができるよう進める。							
第01講	先秦の文化と文学	黄河流域の文字文化	鍵語「甲骨文字」				
第02講	先秦の文化と文学	黄河流域の青銅器文化	鍵語「金文」				
第03講	先秦の文化と文学	長江流域の青銅器文化	鍵語「仮面」				
第04講	先秦の文化と文学	黄河流域の歌謡「詩経」	鍵語「詩経」				
第05講	先秦の文化と文学	長江流域の歌謡「楚辞」	鍵語「楚辞・楚文化」				
第06講	先秦の文化と文学	屈原伝説	鍵語「屈原」				
第07講	秦代の文化と文学	始皇帝とその時代	鍵語「兵馬俑」				
第08講	秦代の文化と文学	始皇帝とその時代	鍵語「霸王」				
第09講	秦代の文化と文学	始皇帝とその時代	鍵語「不老不死」				
第10講	漢代の文化と文学	馬王堆漢墓の世界	鍵語「昇仙図」				
第11講	漢代の文化と文学	漢鏡の世界	鍵語「漢鏡（1）」				
第12講	漢代の文化と文学	漢鏡の銘文と文学	鍵語「漢鏡（2）」				
第13講	漢代の文化と文学	古詩の世界	鍵語「神秘数字」				
第14講	唐代の文化と文学	鑑真渡日の謎	鍵語「鑑真」				
第15講	唐代の文化と文学	阿倍仲麻呂と井真成	筆記試験				
授業に関連するキーワード	中国文化の特質	黄河流域（中原）文化	長江流域文化				
伝世文献資料	出土文献資料	考古出土資料	学問方法論 三重証拠法				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 評価：平素の取組（「学習記録」使用）：30点、レポート：30点、 筆記試験：40点、 成績：100点～90点「S」、89点～80点「A」、79点～70点「B」、 69点～60点「C」、60点未満「D」（「D」は単位不認定） 出席時数の扱い：「単位認定のきまり」による							
<b>教科書・参考書等</b> 1) 映像、画像、写真資料、プリントのほか、石川三佐男編「中国の文化と文学」を補助教材資料として用いる。 2) 可能な限りパワーポイントをも用いる。 3) 授業では毎回、当該授業に係る「学習記録」をまとめさせる。							

授業科目名	和文：教育学 I B - 現代社会と教育 - 英文：Pedagogy IB:Modern Society and Education					時間割	火 7-8
科目コード	504-0152	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
細川和仁	教育推進総合センター			佐藤修司	学校教育課程	教文 5 - 509, 2541	
新井真人	学校教育課程	教文 5 - 505, 2542		原 義彦	学校教育課程	教文 5 - 506, 2545	
浦野 弘	教育実践総合センター	教育実践総合センター, 2698		池田全之(責)	学校教育課程	教文 5 - 507, 2544	
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようを、教育哲学、教育社会学、教育学、社会教育学、教師学・教育技術学、教育工学等のさまざまな分野から分析を加える。 2. 到達目標 教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教育学関連科目の導入的位置にある。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 教師学・教育技術学：(細川和仁) 2. 教育と社会：教育は人間が社会で生きていくためには不可欠である。人間は教育により文化を習得し多様な社会的存在へと形成されていく。人間は教育により社会化されていくとよい。ここでは教育社会学の立場から社会化のメカニズムに関する理解を深める。(新井真人) 情報化社会におけるリテラシー：国は、2010年に「コピキタスネットワーク社会」の実現を目指し「u-Japan 政策」を展開しようとしています。このように社会の情報化が進展する中、ヒトの情報処理過程を手がかりにして、「学ぶ」ということの意味と、メディア・リテラシーについて考える。(浦野 弘) 4. 教科書問題などを通じて国家と教育の関わりについて考察すると同時に、校則や体罰などの問題から学校と子供・親との関わりを学ぶ。(佐藤修司) 5. 教育哲学：(細野 祐) 6. わが国の社会情勢と生涯学習：構造改革が進展する中での生涯学習推進の現状と課題、および私たち一人ひとりの生涯学習のあり方について考える。(原 義彦)							
授業に関連するキーワード	教師と教育技術		教育的抵抗		社会化と逸脱行為		
コンピュータ・リテラシー	情報処理		生涯学習				
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> レポート、試験、出席等を総合して評価する。							
<b>教科書・参考書等</b>							



授業科目名	和文：芸術と文化Ⅱ - 世界の音楽と文化 - 英文：Art and CultureⅡ：World Music				時間割	水 9-10	
科目コード	504-0188	必修・選択	選択	単位・時間数	2・15	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	芸術と文化Ⅰ 日本の音楽文化						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
武内 恵美子	音楽教育講座	2565					
オフィスアワー	曜日及び時間：水曜日 14：30～16:00			場所：教育文化学部2号館 206号室			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 現在世界の音楽文化の基準となっている西洋音楽の歴史と、世界の音楽を学ぶことによって、国際的な視野に立った音楽文化の判断ができるようになることを目指す。 2. 到達目標 世界の代表的な音楽文化の特徴を理解し聞き分けることができるようになる。また音楽文化を優劣なく判断・評価できるようになる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 世界中の音楽についての知識を幅広く身に付けることで教養としての音楽と柔軟な姿勢と判断能力を培う。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. ガイダンス 世界の音楽を学ぶために、西洋音楽史 1 古代の音楽 2. 西洋音楽史 2 中世・ルネサンスの音楽 3. 西洋音楽史 3 バロックの音楽 4. 西洋音楽史 4 古典派の音楽 5. 西洋音楽史 5 ロマン派の音楽 6. 西洋音楽史 6 近現代の音楽 7. 世界の音楽 1 インドネシアの音楽 8. 世界の音楽 2 インドの音楽 9. 世界の音楽 3 アフリカの音楽 10. 世界の音楽 4 西アジア・中央アジアの音楽 11. 世界の音楽 5 ヨーロッパの音楽 12. 世界の音楽 6 オセアニアの音楽 13. 世界の音楽 7 アメリカ大陸の音楽 14. 世界の音楽 8 東アジアの音楽（含：日本の音楽） 15. 試験							
授業に関連するキーワード	西洋音楽史	民族音楽学	世界の音楽				
音楽	文化						
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 1. 試験 70%、受講姿勢 30% により評価。 2. 全体の 1 / 3(5 回) 以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。 3. 授業中の私語、携帯電話の操作は厳禁です。 4. 注意をしても受講態度を改めない場合は当日の出席はカウントしません。 5. 30 分以上遅刻の場合は欠席とみなします。 6. 出席が足りていても試験を受けない場合は単位は認定しません。 7. 試験には授業中に配布したプリント、ノート他資料等の持ち込みを可とします。 8. 事情により試験を受けられなかった場合、申し出れば再試験を行います。 9. 追試験は行いません。							
<b>教科書・参考書等</b> なし 授業でプリントを配布。							

授業科目名	和文：芸術と文化 III B - 絵画にみる音楽と文学の照応 - 英文：Art and Culture IIIB:Common Themes in Arts				時間割	木 5-6	
科目コード	504-0224	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	アジア美術表現論						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
猪巻 明	美術教育		教文 1-315・2556				
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日 16:00～18:00 場所：教文 1-315							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 芸術の融合（文学，絵画，音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。 ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲，交響詩，舞踏曲，歌劇，楽劇，歌曲，童謡，歌謡曲，邦楽，その他）を比較しながら，作品の時代背景と，画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。 2. 到達目標 1) 近代の西洋音楽が文学（詩，小説，戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。 2) 西洋美術史の中で，イタリアルネッサンス（15世紀），フランスロココ王朝時代（18世紀），フランス象徴派・印象派（19世紀），イギリスラファエル前派（19世紀末），ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19世紀から20世紀初頭），フランス・ナビ派（19世紀末から20世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。 3) 日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え，その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して，説明できる。 4) 近代日本画の中には日本の歌（歌曲，童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみられ，この二つはいかに大衆文化と密着しているかを理解して，説明できる。 5) 邦楽と浮世絵，近代日本画と浮世絵版画と邦楽との対照により，日本の江戸時代以来の音楽と絵画の係わりを理解して，説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 絵画と音楽の同一主題による様々な芸術表現の追求により，一般教養としての芸術の理解を手助けしようとしたものです。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> CD，ビデオ等（音楽）拡大投影機，スライド，ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。 1 レスピーギ「交響詩ポッティチェリの三枚の絵」（春，東方三博士の礼拝，ヴィーナスの誕生） 2 ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」「交響詩海」 ストラヴィンスキー「春の祭典」 プーシェ「牧神とシューリンクス」 3 ラヴェル「タフニスとクロエ」 シャガールが描いたパリ，オペラ座の天井画。タフニスとクロエを描いた画家達 4 ドビュッシー「選ばれた女」19世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽 5 ドビュッシー「ベレアスとメリザンド」モーリス・ドニの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達 6 R.シュトラウス「サロメ」 モローの「雅歌」と矢代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリアルネッサンス・フィレンツェ派の画家達 7 ドビュッシー「月の光」 フォーレ「月の光」 ラヴェル「草の上」 ホフマン「舟歌」 ラヴェル「夜のガスパール」 ヴァトー「シテール島への船出」 銅版画家ジャック・カロ作品と絵画と音楽 8 ラフマニノフ 交響詩「死の島」 ワーグナーとベックリン，ワーグナーの楽劇と絵画 9 マラー「第1交響曲」クリムト三部作「哲学，医学，法学」とマラーの第8交響曲 クリムトの「彫刻」のアレゴリーとマラー第5交響曲と映画「ベニスに死す」 10 ヴィバルディ「四季」暦絵とブリュゲル作品 ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品 11 プッチーニ 歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画 12 團伊玖磨 歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安英さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」 13 日本の歌と近代日本画作品 山田耕筰「この道」と山本丘人「残夢抄」 堂本印象「坂」 三浦文治「動物園行楽図」 14 歌謡曲と近代日本画作品 美空ひばり，石川さゆり，小林幸子，その他 15 邦楽の世界，鈴木春信「白鷺」と坂東玉三郎の舞踊「白鷺」，鍋木清方「道成寺」と坂東玉三郎の舞踊							
授業に関連するキーワード	ルネッサンス	ディアギレフ	パンの会				
ロセッティ	オフィーリア	柳沢 健	越後獅子				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出席を前提とした，3回のレポート（全授業15回の授業において3題の課題をレポートで提出する）の評価100%							
<b>教科書・参考書等</b> 毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。							

授業科目名	和文：哲学の世界Ⅰ - 哲学入門 - 英文：Philosophy I: Introduction to Philosophy				時間割	火 1-2	
科目コード	504-0392	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	哲学・倫理学関係の他の授業						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
田子 多津子	非常勤講師						
オフィスアワー	曜日及び時間：授業終了後			場所：非常勤講師控室			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 哲学的な思考法を身につける。 2. 到達目標 一般にどのような問題が哲学的な問題であるか、それにどのように取り組むのが哲学的思考法であるかを学ぶ。さらに、みずから問題を提起し、それについて哲学的に考える姿勢を身につける。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 一般に哲学とはどのようなものであるかを学ぶという点で目的・主題別科目の「三つの目的」のうち「(2) 学問の体系」に関連し、その上でみずから哲学的思考ができるようになることを目標とする点では「(3) 学問の方法」に関連する。さらに参加者による討議を通じて「(1) 学問の進展」にも貢献することを目指す。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 教科書を手がかりとして、さまざまな哲学的問題について哲学的に考えていく。教科書は、一見親しみやすいが、高度な内容を含む哲学入門書である。 あらかじめ教科書の該当箇所を読んでくることを前提とし、担当者による議論の整理と問題提起、教員による補足、全員による討議を行う。 < 進行予定 > 第 1 回 導入 第 2～4 回「第 1 章 いまが夢じゃないって証拠はあるか」 第 5～8 回「第 2 章 たくさんの人間の中に自分という特別なものがあるとはどういうことか」 第 9～11 回「第 3 章 さまざまな可能性の中でこれが正しいといえる根拠はあるか」 第 12～14 回「第 4 章 自分がいまここに存在していることに意味はあるか」 第 15 回「第 5 章 死と夢」・まとめ							
授業に関連するキーワード	夢と現実	哲学と常識	自分と他者				
善悪の客観性	言葉と世界	人生の意味	存在の神秘				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 数回の担当と討議への参加が前提。小テスト、およびレポートにより評価する。							
<b>教科書・参考書等</b> 【教科書】永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み：哲学的諸問題へのいざない』ちくま学芸文庫、2007年（事前に購入しておくこと）							

授業科目名	和文：哲学の世界 III - 現代の科学論 - 英文：Philosophy III: Contemporary Science Studies				時間割	月 1-2	
科目コード	504-0401	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
勝守 真	国際コミュニケーション		教文 3-228・2648				
オフィスアワー			曜日及び時間：水 14:30～16:00		場所：研究室		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的  2. 到達目標 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>  							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> たとえば、ある宗教の信者たちが口をそろえて彼らの「真理」を語る時、私たちは「気持ち悪い」と感じることもあるだろう。しかし、ではなぜ、科学は気持ち悪くないのだろうか？ 科学者たち(あるいは教師、教科書)の口のそろえかたは、ある意味で宗教者以上だということに。私たちが科学的「真理」の語りを快く聞くことができるのは、ひょっとして私たち自身がある大きな「気持ち悪い」集団に属しているからではないか？ この授業では、「科学は真理に向かって合理的に進歩する」という伝統的な科学観と比較しながら、クーンのパラダイム論やそれ以降の科学論を学ぶ。さらに、技術(テクノロジー)や自然環境をめぐる思想にも目を向け、人間と自然との関係という視点から科学をめぐる諸問題を捉え返すことにしたい。  英語の文献も使い、授業は部分的に英語で行う。English-language materials are used and the class is partly conducted in English. 文系・理系を問わず、考えるのが好きな人を歓迎します。							
<b>授業に関連するキーワード</b> 							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 試験(論述式)							
<b>教科書・参考書等</b> 参考書として、井山弘幸・金森修『現代科学論』(新曜社)など							

授業科目名	和文：哲学の世界 IV - 論理学入門 - 英文：Philosophy IV: Introduction to Logic				時間割	火 7-8	
科目コード	504-0421	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義・演習	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
勝守 真	国コミ	教文 3-228・2648					
オフィスアワー			曜日及び時間：水 14:30～16:00		場所：研究室		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的  2. 到達目標 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 「きょうは寒い」というのと「きょうは寒くないことはない」というのでは、ふつう必ずしも同じ意味ではない。ところが、両者(肯定と二重否定)を同一視する奇妙(?)な世界がある。数学や自然科学の大部分がそうだし、コンピュータもその発想にもとづいている。この授業ではまず、そのような発想を体系化した論理学という分野、とくに現代の記号論理学の基礎を学ぶ。さらに、そのような論理の枠に収まりにくいパラドクス(逆説)の問題、たとえば「私がいま言っていることはウソだ」という「うそつきのパラドクス」などを取り上げる。パラドクスの問題を手がかりとして、論理と言語、論理と哲学との関係へと視野を広げていきたい。  文系・理系を問わず、考えるのが好きな人を歓迎します。							
授業に関連するキーワード							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 試験(論述を含む)							
<b>教科書・参考書等</b> 飯田賢一他『論理学の基礎』(昭和堂)							

授業科目名	和文：障害と共生 I B - 福祉と人権 - 英文：Mainstreaming of People with Disabilities IB:Disabilities and co-existence				時間割	火 9-10	
科目コード	505-0064	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
内海 淳	障害児教育	教文 4-511・2548					
オフィスアワー 曜日及び時間：月 - 金 12:00 - 12:50			場所：教文 4-511				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。 2) 障害者の権利擁護の意義を理解する。 2. 到達目標 1) 障害者問題は身近な同額であることを説明できる。 2) ノーマライゼーションの意味を説明できる。 3) 障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。 4) 人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。 5) 当事者活動の意義を説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 障害の概念と障害者の現状 2. 障害者福祉の理念：ノーマライゼーション 3. 障害者福祉施策の特質 4. 障害者福祉の仕組みと現状 5. 障害者への人権侵害 6. 障害者の権利擁護 7. 権利擁護としての当事者活動							
授業に関連するキーワード	障害者	障害者福祉	ノーマライゼーション				
人権侵害	権利擁護	当事者活動					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
<b>教科書・参考書等</b>							

授業科目名	和文：医学と健康 I B - 心臓と健康 - 英文：Medical Science and Health IB:Heart and Health					時間割	火 7-8
科目コード	505-0072	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1~4年						
授業の形式	講義	備考	11月24日のみ9・10時限に講義を行います。				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
尾野恭一	医学部	6069		西川俊昭	医学部	6172	
増田弘毅	医学部	6062		長谷川仁志	医学部	6106	
山本文雄	医学部	6133					
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 心臓病を中心として、健康と医学について学ぶ 2. 到達目標 (1) 心臓の構造と機能について理解する。 (2) 心臓病の病理について理解する。 (3) 心臓病の種類、原因、症状を理解する。 (4) 心臓病の治療に用いられる薬物について理解する。 (5) 心臓病の外科手術について理解する。 (6) 心臓病研究の技術について理解する。							
カリキュラム上の位置付け							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 予定 10月6日 心臓循環生理学 (担当：尾野恭一) 10月13日 心臓病理学 (担当：増田弘毅) 10月20日 現代社会と心臓病 (担当：長谷川仁志) 10月27日 薬物による循環制御 (担当：西川俊昭) 11月10日 心臓循環薬理学 (担当：尾野恭一) 11月17日 心臓病学研究技術 (担当：尾野恭一) 11月24日 心臓病の外科治療 (担当：山本文雄) 12月1日 レポート提出							
授業に関連するキーワード	心臓		血管		心臓病		
健康							
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 出席状況(2/3以上)とレポート(提出必須)による評価。							
<b>教科書・参考書等</b> 指定しない							

授業科目名	和文：医学と健康 II B - 子供の発達と健康 - 英文：Medical Science and Health IIB:					時間割	火 5-6
科目コード	505-0084	必修・選択	選択	単位・時間数	1・7	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
小山田美香	医学部・小児科	884-6159		田口睦子	秋田県教育庁特別支援教育課	860-5135	
高橋志穂子	医学部・小児科(臨床心理士)	884-6159		小林寛幸	秋田県中央児童相談所	862-7311	
渡部泰弘	医学部・小児科	884-6159		武田一幸	秋田家庭裁判所	824-3121	
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
授業の目的及び到達目標							
1. 目的							
1) 小児の正常な身体的・心理学的成長発達を理解する							
2) 小児の成長発達を促すためにどんな事が必要なのかを理解する							
3) 発達障害について理解する							
4) 学校における特別支援教育について理解する							
5) 少年非行の現状と対応について理解する							
6) 児童虐待の現状と対応について理解する							
2. 到達目標							
1) 小児の正常な身体的・心理学的成長発達過程について、基本的な知識を説明できる							
2) 小児の成長発達を促す具体的な方法を説明できる							
3) 自閉症スペクトラム・ADHDなどの発達障害の概念と一般的対応について説明できる							
4) 特別支援教育の概要について説明できる							
5) 少年非行への対応について、基本的な知識を説明できる							
6) 児童虐待への対応について、基本的な知識を説明できる							
カリキュラム上の位置付け							
子どもの発達について、医学・教育・福祉のさまざまな観点から理解する事を目的とする							
授業の概要と進行予定及び進め方							
こどもを取り巻く環境は近年大きく変化しており、健康という概念そのものも変化していると言っても過言ではない。医療においては感染症中心の対応から生活習慣病・心の問題への注目が大きくなっているし、教育においては社会の変化・多様化の中で学校教育に求められるものも変わってきており、スクールカウンセラー制度や特別支援教育など新たな取り組みが行われてきている。そうした心理・社会的な状況までを踏まえた「こどもの発達」を理解するために、以下のコースを開講する。							
1期 6/16、2期 12/8 小山田美香(医学部・小児科): こどもの発達(1) 医学的な成長発達							
1期 6/23、2期 12/15 高橋志穂子(医学部・小児科臨床心理士): こどもの発達(2) 心理学的な成長発達							
1期 6/23、2期 12/22 渡部泰弘(医学部・小児科): 発達障害の理解と対応(1)							
1期 7/7、2期 1/12 渡部泰弘(医学部・小児科): 発達障害の理解と対応(2)							
1期 7/14、2期 1/19 塚本宏明(県教育庁特別支援教育課): 特別支援教育の現状と取り組み							
1期 7/21、2期 1/26 小林寛幸(中央児童相談所・児童心理司): 児童虐待の現状と取り組み							
1期 7/28、2期 2/2 武田一幸(秋田家庭裁判所・主任調査官): 少年非行の現状と取り組み							
授業に関連するキーワード	発達	小児			発達障害		
特別支援教育	非行	児童虐待					
成績評価の方法及び合否判定基準							
出席は7回のうち5回以上を要する							
7回の講義のうち、特に興味を持った講義1つについてレポートを提出すること。その内容は以下のようにする。							
1; 講義内容に関する事柄で、							
・どんな事が分かったか							
・それに関して、現代の子どもが心理社会的により健康であるためには、今後どんな関わり・取り組みが必要と考えるかを記載してください。							
2; 一般のA4レポート用紙で提出。「医学と健康 II 子どもの発達と健康 レポート」、学籍番号、氏名、「何月何日、何の講義について」と書いた上で、上記内容について記載して下さい。							
3; 字数は規定しないが、少なくともレポート用紙3分の2ぐらいは書くこと。タイトルのみ別紙にする必要なし。							
4; その気になればネットで探してコピー&ペーストすれば体裁は出来てしまいますので、ワープロソフト不可。手書きで頑張ってください。							
5; 〆切は、その講義の翌週火曜日とする。教育推進総合センター(教務係)まで提出。							
教科書・参考書等							



授業科目名	和文：医学と健康 III B - 加齢と保健医療 - 英文：Medical Science and Health IIIB:aging and health care				時間割	木 3-4																																																																																																																
科目コード	505-0092	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期																																																																																																															
受講対象学生	全学部1～4年																																																																																																																					
授業の形式	講義	備考																																																																																																																				
履修する際に前提とする授業科目名																																																																																																																						
内容的に密接に関係する授業科目名																																																																																																																						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号																																																																																																																			
浅沼義博	医学部保健学科		C-102・6524																																																																																																																			
ほか看護学専攻教員																																																																																																																						
オフィスアワー			曜日及び時間：適宜担当教官と連絡		場所：適宜担当教官と連絡																																																																																																																	
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 加齢に伴う身体的精神的变化を理解する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。 2. 到達目標 1) 加齢に応じた健康保持法，医療への関わり，医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し，高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について，具体的に問題提起し考察することができる。																																																																																																																						
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。																																																																																																																						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:10%">担当</td> <td colspan="6">講義の内容</td> </tr> <tr> <td>1. 柳屋道子：地域・老年看護学講座</td> <td>10/1/09</td> <td colspan="4">高齢社会における保健医療福祉の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 柳屋道子：地域・老年看護学講座</td> <td>10/8</td> <td colspan="4">障害者と加齢</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 煙山晶子：地域・老年看護学講座</td> <td>10/15</td> <td colspan="4">高齢者ケア(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 煙山晶子：地域・老年看護学講座</td> <td>10/22</td> <td colspan="4">高齢者ケア(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座</td> <td>10/29</td> <td colspan="4">高齢者の心のケア(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座</td> <td>11/5</td> <td colspan="4">高齢者の心のケア(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 百田芳春：基礎看護学講座</td> <td>11/12</td> <td colspan="4">加齢と身体機能変化(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 百田芳春：基礎看護学講座</td> <td>11/19</td> <td colspan="4">加齢と身体機能変化(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 百田芳春：基礎看護学講座</td> <td>11/26</td> <td colspan="4">加齢と身体機能変化(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 水沼秀夫：基礎看護学講座</td> <td>12/3</td> <td colspan="4">加齢と栄養(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. 水沼秀夫：基礎看護学講座</td> <td>12/10</td> <td colspan="4">加齢と栄養(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 水沼秀夫：基礎看護学講座</td> <td>12/17</td> <td colspan="4">加齢と栄養(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. 浅沼義博：臨床看護学講座</td> <td>12/24</td> <td colspan="4">加齢と手術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 兒玉英也：母子看護学講座</td> <td>1/21/10</td> <td colspan="4">中・高年女性の健康問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. テスト</td> <td>1/28/10</td> <td colspan="4">記述式テスト</td> <td></td> </tr> </table>							担当	講義の内容						1. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	10/1/09	高齢社会における保健医療福祉の課題					2. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	10/8	障害者と加齢					3. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	10/15	高齢者ケア(1)					4. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	10/22	高齢者ケア(2)					5. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	10/29	高齢者の心のケア(1)					6. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	11/5	高齢者の心のケア(2)					7. 百田芳春：基礎看護学講座	11/12	加齢と身体機能変化(1)					8. 百田芳春：基礎看護学講座	11/19	加齢と身体機能変化(2)					9. 百田芳春：基礎看護学講座	11/26	加齢と身体機能変化(3)					10. 水沼秀夫：基礎看護学講座	12/3	加齢と栄養(1)					11. 水沼秀夫：基礎看護学講座	12/10	加齢と栄養(2)					12. 水沼秀夫：基礎看護学講座	12/17	加齢と栄養(3)					13. 浅沼義博：臨床看護学講座	12/24	加齢と手術					14. 兒玉英也：母子看護学講座	1/21/10	中・高年女性の健康問題					15. テスト	1/28/10	記述式テスト				
担当	講義の内容																																																																																																																					
1. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	10/1/09	高齢社会における保健医療福祉の課題																																																																																																																				
2. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	10/8	障害者と加齢																																																																																																																				
3. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	10/15	高齢者ケア(1)																																																																																																																				
4. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	10/22	高齢者ケア(2)																																																																																																																				
5. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	10/29	高齢者の心のケア(1)																																																																																																																				
6. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	11/5	高齢者の心のケア(2)																																																																																																																				
7. 百田芳春：基礎看護学講座	11/12	加齢と身体機能変化(1)																																																																																																																				
8. 百田芳春：基礎看護学講座	11/19	加齢と身体機能変化(2)																																																																																																																				
9. 百田芳春：基礎看護学講座	11/26	加齢と身体機能変化(3)																																																																																																																				
10. 水沼秀夫：基礎看護学講座	12/3	加齢と栄養(1)																																																																																																																				
11. 水沼秀夫：基礎看護学講座	12/10	加齢と栄養(2)																																																																																																																				
12. 水沼秀夫：基礎看護学講座	12/17	加齢と栄養(3)																																																																																																																				
13. 浅沼義博：臨床看護学講座	12/24	加齢と手術																																																																																																																				
14. 兒玉英也：母子看護学講座	1/21/10	中・高年女性の健康問題																																																																																																																				
15. テスト	1/28/10	記述式テスト																																																																																																																				
授業に関連するキーワード	加齢	保健医療	健康																																																																																																																			
ケア	栄養	障害	身体機能変化																																																																																																																			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 講義出席状況(2/3以上)を満した上で，学習意欲・態度(10%)，テスト(90%)																																																																																																																						
<b>教科書・参考書等</b> 特に，指定しない。																																																																																																																						

授業科目名	和文：人権と共生ⅡB - 教育と人権 - 英文：Human Rights IIB: Education and Human Rights				時間割	火 7-8	
科目コード	505-0104	必修・選択	選択	単位・時間数	1・7	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考	教育に関わる著作、最低1冊を読了し、レポートを作成することが求められる。				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
佐藤修司	教育文化学部	5-509・2541					
オフィスアワー	曜日及び時間：金曜日			場所：教育文化学部 5-509			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 教育の場面を中心にしながら、人権を考える視点を学ぶ  2. 到達目標 教育における、親、子ども、教師、住民、国家などの様々な主体間の権利・義務関係を理解し、具体的場面での人権問題への視点、対処方法などを習得する。授業を通じて、自らのこれまでを振り返り、これからを展望することで、「自分くずしと自分づくり」を考える視点を獲得する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教育文化学部の基礎科目である生涯学習論2・3や、専門科目である教育文化行政論などの基礎に位置付くとともに、全学部学生にとっての基本的、社会的な教養としても位置付く。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 管理主義、能力主義といった教育の原理的問題と人権との関係を考察し、教育課程や生徒・生活指導などの教育実践における人権の問題を検討し、さらに、人権教育、平和教育の問題についても考える。 1. 教育における管理主義：体罰をめぐって 2. 教育における管理主義：校則をめぐって 3. 教育における能力主義：受験競争をめぐって 4. 教育における人権問題：いじめをめぐって 5. 教育における人権問題：不登校をめぐって 6. 教育における平和と戦争							
授業に関連するキーワード	人権教育	平和教育	管理主義				
能力主義							
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 出席態度（20％）、履修表（20％）、レポート（30％）、最終試験（30％）							
<b>教科書・参考書等</b> 参考書：佐藤修司著『教育基本法の理念と課題』学文社 佐藤広美編『21世紀の教育をひらく』緑陰書房 浪本・三上『「改正」教育基本法を考える』北樹出版							

授業科目名	和文：人権と共生 III - 男女共生論 - 英文：Human Rights III:Exploratory Gender Issues				時間割	木 3-4
科目コード	505-0121	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・	開設学期等 2期前半
受講対象学生	全学部1~4年					
授業の形式	講義・学生参加型	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名	ジェンダー論					
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
望月 一枝	教科教育		教文 1-206・2552			
オフィスアワー 曜日及び時間：金 7,8時限			場所：教文 1-206			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 友人関係や恋愛関係をジェンダーの視点で見直し、自らの恋愛観・人間観を構築する。 2. 到達目標 男女が共に生きるためにジェンダー・センシティブな視点を獲得する。 性と生の問題を社会や歴史との関係で考えることができる。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 共生を考えるうえで、基礎的・基本的な教養として位置づけられる。						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 学生の友人関係・恋愛などにおけるコミュニケーションの特徴 2. DV 相談から 3. 恋愛結婚の時代 制度としてのロマンチック・ラブ 4. 「一夫一婦制」への逆行 一夫一婦制という科学 5. 人類のために恋愛を 6. 恋愛から戦争へ 7. 恋愛結婚の方へ						
授業に関連するキーワード	ドメスティックバイオレンス	恋愛	セクシュアリティ			
ジェンダー	セクシャルハラスメント	優性思想				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 発表(40点)、レポート(60点)						
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：、『恋愛結婚は何をもたらしたか 性道徳と優性思想の百年』加藤秀一、ちくま新書						

授業科目名	和文：医学と健康 VII - 生命誕生の科学 - 英文：Medical Science and Health VII: The Science of Human Birth					時間割	木 7-8
科目コード	505-0162	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考	18年度以降入学者				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
兒玉英也	医学部保健学科	C-114・884-6513		佐々木久長	医学部保健学科	C-407・884-6506	
水沼秀夫	医学部保健学科	C-113・884-6522		工藤俊輔	医学部保健学科	C-305・884-6520	
大友和夫	医学部保健学科	C-408・884-6510					
オフィスアワー	曜日及び時間：月曜日 16:00-17:00			場所：C-114			

<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 ヒトの生命誕生に関わる医学領域として、先天異常、生殖医療、および性行動に焦点を絞り、生化学（遺伝学）、解剖学（発生学）、心理学の基礎的概念、ならびに先天異常、生殖医療、に関わる様々な臨床的課題、倫理問題について学ぶ。 2. 到達目標 1. 先天異常のメカニズムに関する概念を理解する。 2. 先天異常について、医学的、ならびに理学・作業療法的観点から幅広い知識を得る。 3. 生殖医療における倫理問題について理解を深める。 4. 人間の性の意識や性行動について理解を深める。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 生命科学に関連する分野を学ぶ学生にとっては、生殖医療、先天異常や性行動異常などの生命誕生に関わる様々な異常を理解する基盤となるものである。保健学科学学生には、専門教育の理解を深めるために有益なものである。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 第1回 11月26日 担当：水沼 「生命誕生に関わる遺伝学の知識」 遺伝学の基本概念について復習し、遺伝子変異の基礎概念、点突然変異、対立遺伝子、などの、遺伝子異常に関わる基礎知識を得る。また、減数分裂時の染色体の状態、異数体、倍数体、欠失などの構造異常、の概念について理解する。 (評価法) 講義内容に関連した課題をレポートとして提出させ、その記述内容によって評価を行う。 第2回 12月3日 担当：大友 「生命誕生に関わる発生学の知識」 男性および女性生殖器の解剖と機能、精子形成、卵子形成、受精と着床、ヒトの初期発生の概略を学ぶとともに、臨界期の概念を理解する。また、環境因子（ウイルス感染、放射線、薬剤、化学物質）による先天異常発生のメカニズムについて学ぶ。 (評価法) レポートを提出してもらい、それに基づいて評価を行う。 第3回 12月10日 担当：兒玉 「配偶子の供与について」 生殖医療により行われる配偶子の供与、その医療倫理学的問題点について学ぶ。 (評価法) レポート提出。 第4回 12月17日 担当：兒玉 「出生前診断について」 出生前診断について、その医療倫理学的問題点について学ぶ。 (評価法) レポート提出。 第5回 12月24日 担当：兒玉 「性行動と性感染症」 若者の性行動について、特に性感染症、人工妊娠中絶、避妊などの問題について学ぶ。 (評価法) レポート提出。 第6回 1月21日 担当：佐々木 「ヒトの性行動に関わる心理学」 人間の性の意識（社会的性同一性及び生物学的性同一性）や性行動について、その正常な発達過程について学ぶ。また同性愛や性機能不全の心理についても理解する。 (評価法) 評価はレポートで行う。 第7回 1月28日 担当：工藤 「障害児のこころ・人間のこころ-裸のいのち-」 人間のこころというものは一般的容易にわからない。複雑であるし、一律ではない。捕らえどころがなく矛盾に充ちている。しかし、障害児の場合その不定形のこころが素直に表現されて、見えやすい場合がある。特に、重症心身障害児の場合、「いのち」とは何か、まさに「はだかのいのち」と接していることを実感することがある。本講義では障害児療育の概論と「いのち」とは何かについての理解を深める。 (評価法) 評価はレポートで行う。							
授業に関連するキーワード	先天異常	生殖医療	性感染症				
遺伝性疾患	出生前診断	重症心身障害児	性同一障害				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出席した講義について、各講義ごとにレポートまたは試験にてA - Dの評価を行う（欠席はD扱い）。 評価C以上の授業が7回の講義中5回以上に達していれば、合格とする。 成績評価の方法：Aを80点、Bを70点、Cを60点とし、平均する。欠席のない学生に関しては、10点を加点する。尚欠席が2回の場合、最高でもB評価とする。							
<b>教科書・参考書等</b> 特になし。講義時に参考図書を紹介する場合がある。							

授業科目名	和文：ライフサイエンスⅡ - 生命の連続性 - 英文：Life Science II:Continuity of the Life				時間割	火 3-4	
科目コード	506-0011	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
石井照久	教育文化学部		教文4号館309・2681				
オフィスアワー 曜日及び時間：水曜日16時-18時 場所：教文4号館309							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 生命は生命より生じ連続していく。ライフサイエンスのうち、この授業では生命の遺伝、生殖、進化などをマイクロとマクロの両面から学ぶことによって、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを理解することを目的とする。 2) ライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを理解することを目的とする。 2. 到達目標 1) 生命観の歴史的変遷を説明できる。 2) 地球上での生命の歴史を概説できる。 3) 細胞のしくみ、生殖のしくみ、遺伝のしくみを説明できる。 4) 現代の生命科学技術の概略を説明できる。 5) 進化学を理解し、現代人の起源を説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教育文化学部1年で自然環境選進進学希望者、および医学部1年で高校生物未履修者は、それぞれの専門分野のよい導入教育となるのでお勧めである。またその他の人にとっても21世紀に生きるうえで必須となるライフサイエンス(生命科学)関連の常識を解説する。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 以下1回目から15回目までの進行予定です。本授業では、教科書を使用しますので教科書をあらかじめ購入して下さい。また授業時に教科書を持参して下さい。授業では教科書の内容すべてを扱うことは無理なので、各自読み進めておいて下さい。授業で扱えない部分も非常に為になるので、ぜひ教科書を購入して読んで下さい。なお各項目の後に教科書以外で各項目に関連する参考図書のうち1冊を記載しましたので参考にして下さい。講義全体の参考図書は参考図書欄を見て下さい。 の部分は視聴覚教材を予定しています。 1. ガイダンス、第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり「目でみる生物学(三訂版)」 2. 第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり + 「目でみる生物学(三訂版)」 3. 第1章 生命観の変遷 2) 自然発生説について 「目でみる生物学(三訂版)」 4. 第2章 生命の誕生について 「図説 生物の世界(三訂版)」 5. 第3章 生命とは細胞とは その1) 「好きになる生物学」 6. 第3章 生命とは細胞とは その2) 「生物学超入門」 7. 第4章 生命の連続 1) 無性生殖と有性生殖 「遺伝子と夢のバイオ技術」 8. 第4章 生命の連続 2) 生命の連続性 「絵でわかる生命のしくみ」 9. 第4章 生命の連続 3) 遺伝子DNAとRNAとタンパク 「遺伝子時代の基礎知識」 10. 第5章 現代の生命科学技術 1) 人体改造時代 + 11. 第5章 現代の生命科学技術 2) 遺伝子と医療 + 12. 第6章 進化学 1) 用不用説、獲得形質の遺伝説、自然淘汰(自然選択) 13. 第6章 進化学 2) 分子の進化、現在の進化説 「分子進化学への招待」 14. 第7章 現代人のルーツをたどる 「DNAに刻まれたヒトの歴史」 15. 期末試験							
授業に関連するキーワード	生命	細胞	連続性				
遺伝子DNA	生命科学技術	クローン	進化				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 期末試験の前回までの出席率が2/3以上であることを前提とします。毎回出席をとります。そして授業中の課題点(満点10点)と期末試験点(満点90点)の合計が60点以上で合格とします。なお追試は行わないので注意してください。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書「『生きていく』ってどういうこと?生命のしくみを探る生物学」培風館 参考書「目でみる生物学(三訂版)」培風館 「遺伝子と夢のバイオ技術」「ゲノムでわかることできること」以上羊土社 「資源化する人体」「遺伝子組み換え動物」「遺伝子組み換え(食物編)」以上現代書館 「分子進化学への招待」「遺伝子時代の基礎知識」「好きになる生物学」「好きになる人間生物学」「絵でわかる生命のしくみ」「絵でわかる生物の不思議」「絵でわかる進化論」以上講談社 「図説 生物の世界(三訂版)」「DNA鑑定のはなし」「遺伝子でできること、きまらぬこと」以上裳華房 「DNAに刻まれたヒトの歴史」岩波書店 「生物学超入門」日本実業出版社 「図解雑学生物学」ナツメ社 「大学1・2年生のためのすぐわかる生物」東京図書 その他は授業で紹介します。							

授業科目名	和文：ライフサイエンス III B - 動物たちの生殖戦略 - 英文：Life Science IIIB:Reproductive strategy of Animals				時間割	火 5-6	
科目コード	506-0024	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
河又邦彦	教育文化学部	4-312・889-2590					
オフィスアワー	曜日及び時間：				場所：		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 生命を他と区別する最大の特徴は「増える」ことである。 生物の「増える」戦略を通して、生命を理解することを目的とする  2. 到達目標 1) 無性生殖と有性生殖について説明できる 2) 雄と雌について説明できる 3) 戦略により適応度が変化することを理解できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教養教育							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1) 無性生殖と有性生殖 2) 性とは：雄と雌 3) 生物たちの奇妙な性 4) 雄と雌はなぜ違う 5) オスの戦略 6) メスの戦略 7) ヒトの繁殖							
授業に関連するキーワード	無性生殖	有性生殖	適応度				
雄	雌						
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 課題，レポートにより判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。							
<b>教科書・参考書等</b>							

授業科目名	和文：生活の科学 I B - 衣生活の科学 - 英文：Family and Consumer Science IB:Clothing for Qualitlital Life				時間割	金 1-2	
科目コード	506-0084	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
石黒純一	教育文化学部	教文 1-304・889-2551					
オフィスアワー	曜日及び時間：金曜日、15:00～17:00			場所：教文 1-304			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 衣服の性能と着衣の目的を理解し、生活の場において適切な衣服の選択と着用ができるようになる。 2. 到達目標 衣服の材料としての繊維・糸・布の関係を説明できる。 表現として衣服を着る場合のポイントを説明できる。 防御のために衣服を着る場合のポイントを説明できる。 現在の自分の着衣状態について説明と評価ができる。 他人の着衣状態について説明と評価ができる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 現代と科学・技術の分野に配置されている科目であるが、「着る人」を前提にして我々の感性に密着した科学・技術を考えたい。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 衣服に対する消費者の要求を次の8点にまとめ、それぞれについて、本講義の到達目標に則し、その要求内容、要求を満たすための衣服の性能とその実現状況について、それぞれ解説する。 (0) ガイダンス 我々の衣生活システム (一回) (1) 衣服の外観 - 衣服が表現するもの - (三回) (2) 衣服の着心地 - 我々が衣服に求めるもの - (二回) (3) 取扱易さ - 繰り返し着用できる衣服 - (二回) (4) 形態安定性 - 古くなる衣服 - (二回) (5) 環境形成 - 衣服は我々の体の回りに微小環境を作る (二回) (6) 安全性 - 製造物の安全性 - (一回) (7) 経済性 - 格安品から高級ブランド品まで - (一回) (8) 環境保全性 - 循環型社会における衣服の使用 - (一回)							
授業に関連するキーワード	衣生活	アパレル	シルク				
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 評価方法：定期試験 50%，講義に際し適宜行う小テスト (50%) 判定基準：指定する内容が回答されているか。							
<b>教科書・参考書等</b>							

授業科目名	和文：メカライフ B - 生活のなかの機械工学 - 英文：Mechalife B : Mechanics in Living				時間割	火 5-6	
科目コード	506-0192	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
神谷 修	工学資源学部	工資 2-P304・2730	三浦公久	工学資源学部	工資 2-M213・2344		
中村雅英	工学資源学部	総合研究棟 4階・2479	巖見武裕	工学資源学部	工資 2-M212・2725		
田中 學	工学資源学部	工資 2-P303・2723	足立高弘	工学資源学部	工資 2-M211・2306		
奥山栄樹	工学資源学部	総合研究棟 4階・2733					
オフィスアワー 曜日及び時間：火曜日 11:00～12:00			場所：工資 2-M213 (電話 889-2344)				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 教養として機械工学に関心を持ち、学ぶ楽しさを知ることを目的とする。 2. 到達目標 1) 機械工学とは、どのような学問であるのかを説明できる。 2) 生活の中で機械工学がどのように役立っているのかを説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 特に前提としている履修科目はない。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 機械工学に基づいて、新しい技術はどのように開発されたか、またどのような生産活動が行われているか、あるいはどのような工夫がなされているか、もの作りの興味を織り交ぜながら、教養としての内容を次のテーマで講義する。 10月6日：人と環境にやさしいものづくり（神谷 修） 10月13日：生体と流体力学（中村雅英） 10月20日：未来を開く工業材料（田中 學） 10月27日：海洋温度差発電と熱交換器-海に潜むエネルギー（足立高弘） 11月10日：車いすのビューティフルデザイン（巖見武裕） 11月17日：共振・共鳴現象を考える（三浦公久） 11月24日：ナノテク路散策（奥山栄樹） ホームワーク：報告課題「メカライフを受講して考えたこと」(三浦公久) (講義の順序は都合により変更することがある) 教官によりそれぞれ特色のある工夫がなされ、机上実験、プロジェクターを通していろいろな補助教材が使われる。							
授業に関連するキーワード	機械工学	入門					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 全7回の講義終了後のレポートと、毎回の講義終了時に回収する質問票（講義によっては質問票の形をとらないこともある）の評価を点数化して成績をつける。レポートの評価はA(150)、B(100)、C(50)、D(0:未提出)、質問票の評価はS(45)、A(40)、B(35)、C(30)、D(0:講義と関係ない質問または質問なし)とし、総合成績は、合計点が500満点中450点以上をS、400点以上をA、350点以上をB、300点以上をC、300点未満をDとする。(質問票の評価は講義担当の各教官が行う) 成績評価例 レポート：A、質問票：S 1回、A 2回、B 3回、C 1回の場合 $150 + 1 \times 45 + 2 \times 40 + 3 \times 35 + 1 \times 30 = 410$ 総合成績 A 質問票の評価点が高いので講義に出席し、質問票を書いて提出することが肝要となる。メールアドレスを書き入れておけば(読み違いされないようきれいに書くこと)回答をもらえることがある。							
<b>教科書・参考書等</b>							



授業科目名	和文：コンピュータの科学 I B - コンピュータ科学の基礎 - 英文：Computer Science IB:Fundamentals on Computer Science				時間割	火 3-4	
科目コード	506-0242	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	コンピュータリテラシーにかかわる基礎科目（情報処理の技法、情報処理入門、情報処理）を履修していることが望ましい。						
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
佐々木重雄	教育文化学部	教文4 - 413					
オフィスアワー 曜日及び時間：水 13:00～17:00 場所：教文4 - 413							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解する。 2. 到達目標 情報のデジタル化について説明できる。 コンピュータの構成について説明ができる。 データ表現とその処理について説明できる。 論理演算（ブール代数の演算）ができる。 簡単なデジタル回路（組合せ回路および順序回路）の設計ができる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 本講義は情報処理技術を習得する基礎教育として、重要なコンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 授業概要は以下のとおりに進める。 1. ガイダンスと基礎知識（1回） 2. デジタル化について（2回） 3. コンピュータの構成について（2回） 4. データ表現について（4回） 5. ブール代数と論理回路について（3回） 6. 論理回路について（3回） 全て講義で行い、板書を中心とする。 3、4、6の最後には小テストを行う。 基本的には教科書に従って行う。教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくことと理解が進む。さらに、総合情報処理センターのウェブサイトから、本授業のページへのリンクが張られているので、こちらも参照してもらいたい。							
授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数	デジタル回路				
データ表現	2の補数表現	浮動小数点数表現 (IEEE754)					
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 成績評価は3回の試験（所要時間は各30～40分）を合計した点数で行う。 Aは80点以上、Bは70点以上80点未満、Cは60点以上70点未満、Dは60点未満とする。ただし、小テストは2回以上受けるものとし、1回以下のは放棄とみなす。 テスト時に欠席した者の再試験は行わないものとする。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：八村広三郎「計算機科学の基礎」近代科学社 参考書：都倉信樹「コンピュータ概論」情報処理入門コース1、岩波書店 バターソン、ヘネシー「コンピュータの構成と設計」上・下、日経BP							

授業科目名	和文：コンピュータの科学 II B - グラフとアルゴリズム - 英文：Computer Science IIB:Graph Theory				時間割	水 5-6	
科目コード	506-0252	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部 1～4 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	コンピュータの科学 I						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
上田晴彦	教育文化学部	4-412・2765					
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 グラフ理論は、コンピュータ科学・自然科学・純粋数学・社会科学等の様々な分野での基礎的理論となっている。今後専門課程においてより高度な学問を理解する上でも、またコンピュータ科学への興味を喚起する上でも欠かすことの出来ないものである。本授業では、この魅力的なグラフ理論についての基礎事項を論述する。さらにグラフに関するアルゴリズムを学習することで、コンピュータ科学に対する理解を深める。 2. 到達目標 以下の2点を到達目標とする。 1) グラフ理論の基礎事項を理解する。 2) アルゴリズムへの応用が出来るようになる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> グラフおよびアルゴリズムは、コンピュータ科学を専門とする学生だけでなく、他の分野に興味をもつ学生にも十分に役立つ重要な基礎的理論である。本講義では、今後自然科学・社会科学の専門課程に進む学生に対して、将来要求される基礎的概念を身に付けることをカリキュラム上の位置づけとする。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> グラフ理論とそれに関連するアルゴリズムについて、系統立てて論述する。具体的には以下の順に講義を進める。 1) グラフ理論の基礎 1. グラフとはなにか 2. 木・連結性・分割 3. 周遊・線グラフ 4. 被覆・平面グラフ・4色定理 5. 色分け可能性・グラフと行列 6. グラフと群・有向グラフ 2) アルゴリズムへの応用 7. アルゴリズムの基礎 8. アルゴリズムとデータ構造 9. アルゴリズムと木 10. アルゴリズムと有向グラフ 11. アルゴリズムと無向グラフ 3) まとめ 12. まとめと試験対策 13. 試験							
授業に関連するキーワード	コンピュータ科学	グラフ理論	アルゴリズム				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 講義内容に基づいた試験を実施し、その結果で評価する。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は用いず、講義用プリントを配布する。							

授業科目名	和文：生活の科学 II B - 栄養の分子生物学 - 英文：Family and Consumer Science IIB: Molecular Biology of Nutrition				時間割	水 5-6	
科目コード	506-0314	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
池本 敦	教育文化学部	教文 1-203・2553					
オフィスアワー 曜日及び時間：水 14:30-17:00			場所：教文 1-203 (電話：889-2553)				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりの基礎科学を学ぶ。 2. 到達目標 1) 栄養学の成り立ちとその生命科学における位置づけを理解する。 2) 栄養素の機能を理解するための生化学と分子生物学の基礎を身につける。 3) 代表的な栄養素の機能を分子レベルで説明できる。 4) 食生活と生活習慣病との関わりや遺伝子組換え食品など、食の安全に関する最近の問題点を指摘・説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 食品成分や栄養素を題材として、生化学と分子生物学の要点を講義する。栄養学は生命科学の応用的領域であり、生物学や化学の知識を実生活に結びつけるような内容を取り扱う。高校の化学・生物の未履修者は本授業によって当該分野の内容に触れることができる。また、ヒトが生活していく上で必要な食の安全と健康に関する教養的題材を扱う。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 原則として1回の授業でそれぞれ下記の項目1つを講義する。 1) ガイダンス：生命科学領域における栄養学の成り立ちと目的 2) 総論：生体を構成する物質と細胞 3) 総論：分子栄養学とヒトの遺伝子 4) グルコース代謝と糖尿病 5) タンパク質・アミノ酸と生体機能 6) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康(1) 7) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康(2) 8) コレステロール代謝と健康 9) 抗酸化物質やビタミンC・Eと活性酸素・フリーラジカル 10) -カロチン・ビタミンAと視覚機能・遺伝子発現 11) ビタミンD・カルシウムと骨形成・細胞内情報伝達 12) 必須無機元素の生体内機能 13) 生活習慣病の遺伝子と栄養 14) 肥満と遺伝子 15) 遺伝子組換え食品							
授業に関連するキーワード	栄養	食品	生化学				
分子生物学	遺伝子	生活習慣病					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出席票による授業要約30%、試験50%、レポート20%で評価する。ただし、出席率が2/3以上であることが単位取得の必須条件とする。詳細な評価基準は初回の授業で説明するが、出席は出席票を記入することによりとる。試験は出題範囲を分割して、複数回実施する。レポートは、最終講義の時に課題を提示する。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しないが、通じページ番号の付いた資料を毎回の授業で配布し、教科書的に使用する。従って、授業で配付された資料は全て毎回持参すること。また、参考書は適宜紹介する。							

授業科目名	和文：生活の科学 III - 住まいの環境学 - 英文：Family and Consumer Science III: Building Environmental Science				時間割	木 5-6	
科目コード	506-0320	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1~4年						
授業の形式	講義・演習・実験	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	ア) 教文・地域科学課程の所属学生は、西川担当の専門科目「住生活**論」、「住生活実験・実習I・II」。 イ) 上記以外の学生は、特になし。						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
西川 竜二	教文・生活者科学講座	教文 1-302・2691					
オフィスアワー 曜日及び時間：授業後（木曜7・8限） 場所：教文 1-302							
<b>授業の目的及び到達目標</b> <b>1. 目的</b> 「人にやさしい住環境を、地域や地球にやさしい方法でつくる」ことを科学的に考える。住環境は、主に暖かさ・涼しさ、又は明を対象とする。自分たちの身近な住まいから環境問題の解決を考え実践していく見方・考え方を養う。 <b>2. 到達目標</b> 1) 「人にやさしい住環境」、それを「地域や地球にやさしい方法でつくる」について、科学的・具体的に説明できる。例えば、人に健康・快適な住環境の定義・物理的状態とは？ 現代日本における居住環境の健康・快適性のガイドラインは？ 今日までの住宅の断熱や冷暖房技術等の発展が健康にもたらした恩恵。一方、現在の電灯や冷暖房による一定な明るさ・温度の人工的環境での生活が人間の健康に与える悪影響。私たちが目指すべき住環境の目標とはどのようなものか？ 現在の住生活のライフスタイルとエネルギー消費・環境負荷の関係 地域の伝統民家や現代のパッシブ建築・環境共生建築と呼ばれる建物に備わる、太陽の光・熱など自然のポテンシャルを利用・制御して建築環境を調整する方法 建物を断熱することの個人・社会的な価値（燃料費節約以外の安全・健康・快適、省エネ・省資源、景観の伝承） 秋田や東北地方の住環境の特徴、特に高齢社会における住宅・健康問題。 2) 上記1)を踏まえ、自分の身近な住環境に関心を持ち、その現状を評価し、課題に気づき、具体的な改善方法を考えられるようになること。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 秋田大学では基本的目標の1つに「『環境』と『共生』を課題とした独創的な研究活動を行う」ことを掲げています。本授業では、誰にとっても身近な住生活における「環境」と「共生」に関する問題について、科学的な見方・考え方を学びます。これにより、環境共生に貢献する研究や活動を行える人材に育つための素地を養います。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 授業は、プリント・スライドによる講義、それに関する演習・実験で進めます。序盤は、人に快適な環境とはどのようなものかについて、人の快適性の生理心理、現代日本人の住環境と健康課題、現代の住生活と環境負荷、地域の伝統的な住まい、を通して見方・考え方を養います。中盤に、学生参加型の住居模型実験で環境共生住宅の工夫とそれがもたらす快適環境を確かめ、その工夫の原理や実践方法を後半の授業で学びます。体験と結びついた生活実践につながる知識の習得をめざして、授業中の実験や演習、自宅の住環境の測定調査の課題を取り入れて体験的に学びます。実験や調査は専門的な知識・技術は不要ですが、積極的に取り組める学生諸君の受講を推奨します。内容は以下を予定。 【01 ガイダンス】 シラバスの説明 / 住環境学とは / 授業全体のダイジェスト（予告編）と問題提起 【02~03 温熱快適性を科学する】 人が暑さ・寒さを感じる仕組み / 快適な温熱環境の諸条件 / 演習：教室の温熱環境を測って快適度・不満足者率（クレーム）を予測 【04 現代人のライフスタイル】 現代日本の住生活に関わるエネルギー使用とCO2排出量 / 秋田県の住宅からのCO2排出量の2050年までの推計 【05 建築の形態・機能論】 植物の地域性・多様性（植生気候図） / 伝統建築の地域性・多様性（民家気候図） / 伝統建築文化と現代建築文明（パッシブ型技術とアクティブ型技術） / 照明暖冷房技術の発展と近現代建築の形態の変遷 【06~07 冬暖かく夏涼しい住環境づくり（学生参加型の住居模型実験 / VTR 視聴）】 少人数のグループで実施。良好な住環境を形成する建築的工夫（素材や形態の知恵・技術）の効果を住居模型を用いて実験。受講生自ら手と頭を動かして体験的に納得する。 / 実験の順番待ちの学生は、室町時代（土壁・土間床） 江戸時代（障子・畳座敷）の伝統民家の夏涼しい家づくりの技術に関するVTRを視聴。 【08~09 日射の調整術】 デザイン性の高い日除け、高機能窓ガラス / 実験：高機能窓ガラスの遮熱・断熱実験 / 演習：我が家で夏を涼しく過ごすための窓と日除けの最適デザイン 【10~11 日除け VS エアコン】 エアコン・エコキュートの心臓部「ヒートポンプ」の仕組み、「空気でお湯を沸かす」は本当か！？ / 冷房と都市気候（ヒートアイランド） / 演習：日除け設置と省エネ型エアコンへの買い替え、どっちが快適でどっちがエコ（エコロジー・エコノミー）か？ / 実験：ヒートポンプの原理の体験（断熱圧縮による発火、断熱膨張による冷却） 【12 冬季の住宅熱環境の現状と高齢社会の課題】 統計資料でみる住環境と健康の関係 / 高齢者の温熱生理・心理の特徴 / 東北の住宅における冬季の熱環境の実態と健康課題 * 冬季休業中の課題「自宅の冬季における熱環境調査」（配付の液晶温度計を用いた温度測定により、冬季の住宅熱環境の健康・快適性および暖房効率を診断） 【13~14 住まいの断熱・蓄熱】 断熱にどんな価値を見出すか / 断熱住宅の建て方（外断熱と内断熱） / パッシブソーラーハウス / 断熱を活かした夏の住まい / 学生参加型実験：内断熱と外断熱住宅の暖房環境の違いを理解する模型実験 【15 総括】 期末試験（授業内容に関する論述問題）又は期末レポート課題の出題							
授業に関連するキーワード	建築環境	住環境と健康	ヒトの快適評価のメカニズム				
住生活と省エネ・環境問題	環境共生建築（住まいづくり）	環境共生型の住まい方					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 1) 授業中の課題（要約・意見・演習及び実験への参加、一部宿題もあり）(30%) .....到達目標 1 2) 冬季休業中の課題レポート「自宅の冬季における熱環境調査」(35%) .....到達目標 2 3) 期末の試験またはレポート(35%) .....到達目標 1、2 * (1) 出席 2/3 以上、(2) 住居模型実験への参加、(3) 冬季休業中の課題の提出、(4) 期末試験の受験（又は期末レポート提出）の 4 つを成績評価の必要条件とする。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。毎回の講義にプリント（スライドの抜粋等）を配付。 授業後の発展学習として読んでもらいたい関連図書（図書館所蔵）を適宜紹介。例えば、甲斐徹郎・チームネット「まちに森をつくって住む」、野沢・小玉ら「シリーズ土曜建築学校 居住のための建築を考える」、小松義夫「地球生活記 世界ぐるりと家めぐり」。							